

《担当者名》教 授／小林 道也
准教授／伊藤 邦彦

【概 要】

医薬品の体内動態は、疾病の種類や程度によって多様に変動する。本講義では、薬物動態を制御する生理的要因を理解し、種々疾患時や加齢・性差による薬物動態変化の機序について最新の知見を修得する。

【学修目標】

- ・薬物の体内動態を制御する生理的要因を説明できる。
- ・種々疾患時における薬物動態変化の機序を説明できる。
- ・加齢や性差による薬物動態の変化について概説できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 5	薬物動態制御因子	・薬物動態に関する最新の知見を学び、吸収、分布、代謝、腎・胆汁中排泄を制御する生理的要因を概説できる。	小林 道也
6) 7	肝疾患と薬物動態	肝疾患時における肝血流量変化や代謝酵素・薬物トランスポーターの活性変化を理解し、それに伴う薬物動態変化について説明できる。	伊藤 邦彦
8	心不全と薬物動態	心不全時や心筋梗塞時における生理的变化を理解し、それに伴う薬物動態変化について説明できる。	伊藤 邦彦
9) 10	腎疾患と薬物動態	腎機能低下時の腎排泄と腎外消失の変動を理解し、腎障害患者における薬物投与の注意点を説明できる。	伊藤 邦彦
11	内分泌疾患と薬物動態	・甲状腺機能異常や糖尿病における薬物動態変化を理解し、内分泌疾患における薬物投与の注意点を説明できる。	小林 道也
12	急性期疾患における薬物動態	外傷、外科手術及び熱傷時における薬物動態変化を理解し、急性期における薬物投与の注意点を説明できる。	小林 道也
13) 15	その他の要因による薬物動態の変化	・加齢による薬物動態変化を理解し、高齢者における薬物投与の注意点を説明できる。 ・妊娠時及び月経周期による薬物動態変化を理解し、女性における薬物投与の注意点を説明できる。 ・肥満による薬物動態変化を理解し、肥満者における薬物投与の注意点を説明できる。	小林 道也

【授業実施形態】

面接授業

※授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

受講態度(30%)とレポートの評価(70%)により成績を評価する。

【教科書】

プリントを配布する

【学修の準備】

薬物動態学に関わる復習をあらかじめしておくこと。

【実務経験】

小林道也（薬剤師）

【実務経験を活かした教育内容】

臨床における薬剤師経験に基づき、患者ごとの特徴に合わせた薬物動態予測について教示する。